

(CSF)

# 豚熱が発生

# 栃木県建設業協会[那須支部]が出動

出典：下野新聞社

掲載日：2021年4月27日

**知事 豚熱発生農場の農場調査 防疫措置の現状を把握**

福田富一知事は26日、豚熱(CSF)が発生した那須塩原市の養豚場へ進められている殺処分防疫措置の現状を把握するため、現地調査を行った。

現地調査は豚熱が発生した二つの養豚場のうち、1カ所を実施した。福田知事は同市三島5丁目のキョクトウ三島スポーツパーク体育館で防護服に着替えた後、同市の渡辺美知太郎市長とマイクロバスで養豚場へ向かった。

現場では豚が殺処分される手順や、埋却場所の様子



養豚場の防疫措置などを現地視察した福田知事(中央)＝26日午後、那須塩原市内(県提供)

(C)下野新聞社 無断複製転載禁止。

にし、従事者の苦勞に心を痛めた」と、県外から派遣された獣医師や**建設業協会**の会員らをねぎらった。

調査後、福田知事は作業に当たる県職員らの心身の負担について「職員たちの負担は相当なものがある。無理をして作業に携わらないよう指示した」と述べた。

県によると、26日午現在、二つの養豚場の計約3万7千頭のうち、52・4%に当たる1万9401頭を殺処分した。県職員らの動員は延べ6000人となった。(主田隆則)

掲載日：2021年4月24日

## 発生確認1週間 県内豚熱対応

# 建設業など民間も尽力



## 命に直面、心的負荷強く

那須塩原市内の養豚場で豚熱(CSF)の発生が確認された24日、1週間。県による現場の殺処分では**建設業協会**など民間業者も協力し、力を尽くす。「感染拡大を防ぎ地域の安全確保を」。使命感を胸に作業に当たるが、豚の命を直視せざるを得ない過酷な現場。作業する人たちに疲労感がにじむ。(6面に論説)

豚の埋設を担う県建設業協会那須支部は23日までに、延べ約4500人を6時間の交代制で動員した。

養豚場敷地内に重機で深さ2・5メートル、幅6・5メートルの溝を掘り、石灰と袋に入れた豚を埋める。溝は22日ま

(C)下野新聞社 無断複製転載禁止。

で10列、長さ計450メートルにも及んだ。付近に腐臭がたたまい、豚の悲鳴も耳に聞こえるという。

現場を指揮する男性(52)は、袋に入った豚の姿を垣間見て「かわいそうでならない。命を奪わなければならない殺処分。使命感はあるが、それでも気持ちに保てない」と言った。

県と防疫協定を結んで以来、支部の実働だ。「これほどの規模とは」と石川裕之支部長(62)。想定を大きく上回った。支部は作業員向けメンタルケア窓口の設置を検討している。

一方、県ベストコンクリート協会は養豚場から離れた3地点で1日約10人が毎日平均50台の車を消毒している。産豚奨励員(57)は「考え方は新型コロナウイルスと同じ。まん延防止に努めたい」と気を引き締めた。

このほか県警備業協会や県バス協会も車の誘導や職員輸送に当たり、県内農協なども作業に協力している。(斎藤愛)



埋却する豚の運搬作業(フォークリフト)



埋却作業

